

# 2015 年度 センター試験 英語 (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：55 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり ● なし	
出題形式の変化	● あり ○ なし	
新傾向の問題	● あり ○ なし	

### 総評

設問数の変化はない。出題形式にはいくつか変化が見られた。

まず、第 2 問 C には、会話の空所に入る文の組み合わせを選ぶ新しい傾向の問題が出題された。そのため、昨年度まで出題されていた従来の会話文の問題が、第 3 問の A に移り、結果として未知語を推測する問題が、第 5 問、第 6 問で 1 題ずつ出題されることとなった。一方で、第 5 問で例年出題されていたイラスト問題が今年では出題されなかった。

配点については、例年通り読解問題の比重が非常に高く（154 点 / 200 点）、語彙力や素早い処理能力が必要とされた。

難易度については出題形式の変化、新傾向問題の出題はあったものの、昨年と同様の難易度と考え、「変化なし」とした。

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	発音・アクセント	14 点	前年と同様、発音問題が 3 問、アクセント問題が 4 問という出題で難易度変化もなかった。
第 2 問	文法・語法・会話	44 点	A の四択問題、B の整序問題は昨年と同形式の出題であったが、C に昨年の追試に登場した会話の空所に入る文の組み合わせを選ぶ問題が出題された（昨年度まで B として出題されていた会話問題は第 3 問へ移動された）。
第 3 問	会話・文脈把握 語数 A. 98 語 B. 376 語 C. 537 語	41 点	昨年度まで出題されていた下線の表現と同じものを選ぶ問題がなくなったことが最も大きな変化である。第 2 問の会話問題が第 3 問に移動してきただけで、各設問の内容や難易度が変化したわけではない。
第 4 問	資料読解 語数 A. 418 語 B. 196 語	35 点	昨年までと同様、情報の読み取りが出題され、設問形式、問題難易度ともに大きな変化は見られなかったが、A の問題は昨年度に比べて語数が増加した。
第 5 問	長文読解 語数 615 語	30 点	昨年と大きく異なり、イラスト問題の出題がなく、文章の形式も電子メールに変わった。しかし、英文の内容は平易であったため、解答に苦勞する問題ではない。
第 6 問	長文読解 語数 640 語	36 点	「市民による科学調査」を扱った文章で、昨年度とほぼ同じ語数である。英文・設問共に標準的なものが出題されているが、A の問 2 の下線語彙問題が、少し難しかったかもしれない。